

# 関西学院大学新聞

2019年7月19日 第845号



発行 関西学院大学新聞 編集部  
 〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155  
 関西学院大学新学生会館3F  
 電話：(0798) 51-1181  
 E-mail: info@kgpress.jp  
 HP: http://www.kgpress.jp  
 Twitter: @kg\_shinbun

## 第13回 留学生ウィーク 開催される

6月10日から14日まで、本学G号館ラウンジとフジタグローバルラウンジにて、留学生ウィークが開催された。メインイベントである留学生による自国・大学紹介には150人以上の学生が訪れ、大盛況となった。

### 留学生と日本人学生が交流

13回目の開催となった留学生ウィークで、今年意識したことは融合である。留学生と本学の学生が交流し、融合することが開催の目的だ。

留学生による自国・大学紹介では、60人以上の留学生が16グループに分かれてポスターを制作し、訪れた学生にプレゼンや質疑応答を行った。英語を中心に会話が行われ、訪れた学生は英語での会話や異文化交流を楽しんだ。

各日に開催された日本文化体験イベントでは、学生団体の協力のもとで生け花や紅茶の飲み比べ、茶道、書道、縁日などを体験することができた。今年は融合を意識したこととで、本学生であれば誰でも参加が自由となった。留学生と学生が連れ添っての参加や、参加者同士で交流し、仲良くなるという場面も多く見受けられた。

今回はこのようなイベントを通して、留学生と学生が交流できる場を設けたが、本学には普段から留学生と交流で

きる場所がある。今回会場となったフジタグローバルラウンジでは、留学生と学生が同じ空間で過ごすことができ、このようなイベント以外にも積極的に留学生と関わることで、様々な経験ができるのではないかと。今回のイベントの企画や運営を担当した、本学国際連携機構事務部の田俣辰さんは「国際色豊かな本学で、留学生とのふれあいの場を提供したい。留学生ウィークをはじめ



文化総部茶道部の部員の指導を受け、茶道を体験するアメリカ・ラスベガスからの留学生(左)と6月11日、西宮上ヶ原キャンパスG号館

### 三田キャンパスに 学部新設

神戸三田キャンパスに学部が新設されることがわかった。理系学部の充実を図り、2021年度からは5学部体制になる。

2面

### 図書館で貴重書を紹介



貴重な図書や資料を紹介するイベントが開催され、好評を博した。

3面

### 特集・教授から高校生へメッセージ

受験勉強など大学入学準備をする高校生に、本学の教授がアドバイスを送った。

4面

### ヒストリー・キリスト教主義教育の今と昔

「チャペルアワー」や「キリスト教主義」など、本学のキリスト教主義を色濃く反映する取り組みに迫った。

5面



### 小池百合子都知事 単独インタビュー

小池百合子東京都知事は関西学院大学新聞のインタビューに応じ、自身の主要政策について語った。女性初の都知事として取り組む女性政策や、環境大臣時代から取り組む環境問題、来年に迫った東京五輪・パラリンピックについて説明した。

8面に続く

## 学校法人 兵庫県自動車学校

普通車・準中型

TEL:0798-67-2200

兵庫県自動車学校



関学生協サービスカウンターにてお申込み下さい。

パンフレット、記念誌、報告書 制作・編集、デザイン

## 和泉出版印刷株式会社

【本社】 〒540-0026 大阪市中央区本町1-1-6 本町カノヤビル TEL: 06-6946-1073(代) FAX: 06-6946-7684 E-mail: info@izumi-syuppan.co.jp

【和泉営業所】 〒594-0083 和泉市池上町4丁目2番21号 TEL: 0725-45-2360(代) FAX: 0725-45-6398

6月22日、神戸三田キャンパスで開講されている「サイバー社会論」の講義があった。その中で、内閣府地域活性化伝道師・総務省地域情報化アドバイザーの坪田知己さん(69)が「メディアと信頼」をテーマとした講義を行った。坪田さんは自身が日本経済新聞の記者であった頃の経験を交えながら、これからのメディアの在り方について話した。特に印象的だったのは、信頼を築くための取材方法に関する話だ。坪田さんは、仮に1時間取材できるときすべての時間を取材につき込むのではなく、20分程度メモを閉じて自分の意見を相手に伝えるという。坪田さんはそうして相手との壁を取り払い、深い信頼を築くことができたと話す。この例は取材に限らず、友人や社会人とのコミュニケーションにも活用できるだろう。研究や就職活動など、大学生活では他人との信頼関係が重要になる場面がいくつもある。その際に自分の内側を見せられれば、表面的でない深い信頼が築けるのではないだろうか。もちろん、いきなり本音を言うのは抵抗があるだろう。それならば、相手と話す機会があるときに、少しだけ自身の内側を見せてはどうだろうか。そうすれば、相手も信頼という形で応えてくれるのではないだろうか。



# 神戸三田キャンパス再編

## 理系の充実狙う

う。それに伴い「持続可能なエネルギー」を、キャンパス全体の重点研究テーマに設定した。これは、総合政策学部の開設時からの最重要テーマでもある。

設置予定の神戸三田キャンパスの5学部には、それぞれ大きな特徴がある。中でも特筆すべきは、理学部に設置される物理・宇宙学だ。宇宙物理学の主要3分野（電波天文学、赤外線天文学、X線天文学）を揃え、様々なアプローチで宇宙の謎に迫る。また、建築学部が設立されることにも注目が集まる。

### 「Borderless Innovator」を育てるため

神戸三田キャンパスでの学びの中で、特に越えるべき「境界」として挙げられているのが①国境②文系理系や学問分野の境界③大学という枠である。

①国境を越えた学びのために、学部の専門分野に即した海外学修科目が大幅に拡充される。特に総合政策学部は開設以来「国際性」「学際性」が特色とされ、外国人や外国での活動経歴が長い教員が多い。

②文理や分野の境界を越えるために主に利用されるのが、メジャー・マイナー制度だ。自身の専攻分野（メジャー）を修めつつ、他の分野（マイナー）についても学ぶ制度である。

③大学の外、すなわち実社会で学ぶ、または実社会に学んだことを還元するため、理学部が母体となりア



2021年度から5学部体制になる、神戸三田キャンパス

理学部	自然と、自然をつかさどる科学の法則を理解し、新たな真理を探究。柔軟かつ論理的な思考力と、問題解決力を養う。
工学部	ナノテクノロジー、情報通信や人工知能の技術で持続可能社会の構築に貢献。
生命環境学部	環境問題や食糧問題など、現代社会が抱える課題に挑む。実験科学とデータサイエンスで先進的な研究。
建築学部	グローバルな視点と建築学で、現代社会の課題解決に貢献。社会科学の視点も併せて建築、都市を考える。
総合政策学部	多面性を持つ社会問題を、学際的かつグローバルに考察。問題解決のための政策立案・実行能力の養成を狙う。

ントレプレナー育成科目が創設される。このプログラムは、経営学やマーケティングからなる科目群や、日本IBMと共同開発した「AI活用人材育成プログラム」などを組み合わせることで成り立つ。学生の起業を後押しし、起業家を輩出することが目的だ。

神戸三田キャンパスが再編されれば、本学の理系科目はより充実するだろう。生まれ変わる神戸三田キャンパスに、注目と期待が集まる。

## 視覚障害者へのサポートを学ぶ 東京丸の内キャンパス

来年にパラリンピック東京大会を控えるなか、本学東京丸の内キャンパスで「パラスポーツボランティア養成講座」が開催されている。視覚障害者のサポート方法を学び、実践する。関西学院大学体育会同窓倶楽部（KGA）東京支部で社会貢献を行うソーシャル・クレセント委員会と連携し、同キャンパスが「丸の内講座」として開講した。パラリンピックに向けての取り組みとして小池都知事が同講座を挙げるなど、学内外で注目が集まっている。

▼8面川小池都知事インタビュー  
今年度前期は基礎編2回が終了しており、受講者は講義や体験を通じて、視覚障害者とのコミュニケーションの取り方や、ブラインドスポーツにおける支援者の役割などについて学んだ。24日に行われる実践編ではブラインドサッカー選手との練習補助を行う。

同キャンパスの担当者は「障害者との関わり方を知ることが、優しい社会への第一歩となる。同講座をきっかけにして欲しい」と語り、「在京のキャンパスとして、東京大会へ機運が醸成されつつある東京から、関西の本学学生や教職員へ、取り組みを発信していきたい」と話した。

## 関西学院同窓会が銀座にオフィス開設

交流拠点へ会議室やホール

関西学院同窓会は6月、首都圏の拠点となる「銀座オフィス」を東京都中央区銀座三丁目に開設した。会議室やホールを備え、全国の卒業生や現役生が利用できる。

これまでは、東京駅前の東京丸の内キャンパスに東日本センターがあった。同キャンパスが、就職活動の拠点など、大学活動の拠点としての用途が拡大し手狭になったため、同窓会独自の施設を新設した。

近年は、本学を卒業する学生の半数が東京に配属されるという。これに伴い、東京における同窓会組織の強化が求められていた。同オフィスの新設を機に、東日本センターは発展的に解消した。銀座オフィスは同窓会本部直属の組織として機能を強化する。

銀座オフィスは、WiFi（無線LAN）環境を備えたフリースペースが設けられたほか、サークル活動などにも使えるホールや、同窓会の打ち合わせなどに使える会議室を備える。

銀座オフィスの八杉茂樹運営委員長は「首都圏にいる同窓生が、気軽に立ち寄れる場所



同窓会イベントの打ち合わせを会議室で行う、同窓生ら = 6月25日、東京都中央区銀座の関西学院同窓会銀座オフィス

## 来年1月17日にもイベント

### 原動力は被災者からの「ありがとう」

阪神・淡路大震災の記憶を伝える活動を行う学生がいる。現在、総合政策学部の5人で「KGS M1・17」として震災を伝える活動する。今回、メンバーの春口桃奈さん（総政・3）に話を聞いた。

彼女らは1月17日に、神戸・三宮の東遊園地で写真を展示し当時の被災状況を伝えた。写真は神戸市周辺のもので、震災を経験した人から協力を得て集めた。阪神・淡路大震災や東日本大震災など、被災の日を追悼を行う機会や場所は多い。だが、震災について知る場となることは、少ないと言っている。行ったイベントは、追悼を行うだけでなく震災について写真を通して学ぶ場にしたという思いで作られた。

春口さんは「震災を経験していない私たちがイベントを行い、被災者たちがどう思われるか、嫌な思いをさせないか」と不安もあつたと話した。そんな中、被災者からはたくさんの「ありがとう」の言葉をもらったという。春口さんはこの活動をして心から良かったと笑顔で振り返った。そして、来年の1月17日にイベントを企画しているようだ。

活動のきっかけは、卒業生であるNPO法人「阪神淡路大震災1・17希望の灯り」の藤本真一代表（35）との出会いだ。広島の上砂崩れを経験した春口さんは、震災の対処法を広めたい思いで活動を始めた。

春口さんは被災者と関わりつついていく中で、対処法は人それぞれであるという学び、確かな対

処法はないと気づいた。対処法はなくとも改善できる部分があるという学びがあった。過去を知り二度と起こらないようにと戦争を学ぶ。ならば震災も同じ。命を助けられるように学ぶことは大切。自分の命を自分の力で守れるようにこの活動を行うと決意した。

また、代表の三砂安純さん（総政・3）は、活動を行っていく中で様々な想いに出会い、自分には何ができるのか日々考えていたという。経験した方の想いを完全に汲み取ることができないが、みなさんの想いを大切に、若い世代に伝えるため取り組んでいくと話した。

# どちらの本が古い?

## 図書館で「関学生貴重書チェック」

本学図書館には数多くの貴重な図書や資料が保管されている。普段は学生の目に触れない場所で管理されているため、その存在を知る学生は少ない。今回、そんな貴重書を

知り、興味を持つきっかけとして開催されたのが「関学生貴重書チェック」である。本イベントは、5月13日から24日が第一弾、6月3日から14日が第二弾として、2回に分けて本学図書館1階の特設閲覧室で開催された。過去に開催された貴重書展とは異なり、初めてのクイズ形式での開催となった。

クイズでは、並べて展示された2つの資料から問題の内容に合ったものを選ぶ。問題は6問用意されており、自身の持つスマートフォンを使って解答する。全ての問題に解答を送信すると、答え合わせと解説が見られる仕組みに

なっていた。さらに、イベント期間中は会場に図書館職員が常駐し、展示に関する質問や貴重書の利用方法など、学生の様々な質問にも対応した。問題には、著者や作品の知名度の高いものを多く展示するなど、学生が関心を持てるような工夫がされていた。例えば、与謝野晶子の『みだれ髪』の初版と第3版を比べ、

どちらが初版かを当てる問題があった。これは、初版が与謝野晶子の旧姓である「鳳晶子」として出版されたことから見分けることができる。他には、本学図書館に多く所蔵されている聖書に関する問題もあった。

また、本イベントに参加した全員に、参加賞として本学図書館オリジナルデザインのクリアファイルが用意された。6問全てに正解した人には、全問正解賞としてシールもプレゼントされた。シールは図書館のコミュニケーションキャラクターや展示された資料がデザインされた本イベントのためのオリジナルである。

本イベントには、文学部の学生や1回生を中心に1406人が参加した。友人同士での参加や、全問正解を目指して再度訪れる学生もいたという。参加したある学生は、「貴重書があることを初めて知った。授業で扱った資



熱心に資料を見比べる参加者  
= 関西学院大学図書館

料の実物が見られたことが嬉しい」と話した。図書館職員で貴重図書・古文書担当の井戸田史子さんは「学生が楽しめるイベントになるよう、クイズを用いたり、展示品を工夫したりした。イベントを通じて以前より少しでも貴重書に興味を持ち、利用するきっかけになれば嬉しい」と話す。

# 使途不明金28万円

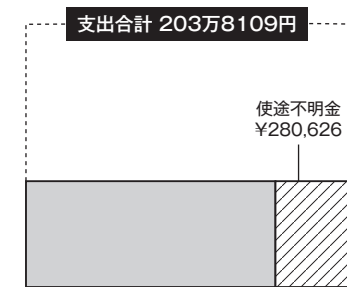
## 学生大会で発覚も説明なし

関西学院大学法学部学生自治会（会長・山本海都）で、昨年度の使途不明金が28万円に上ることがわかった。先月25日に行われた学生大会で、同自治会が明らかにした。

学生大会の決算報告で使途不明金の存在が明らかにされたものの、自治会より具体的な説明や再発防止策についての説明はなかった。学生大会に参加した法学部の男子学生は「軽い謝罪で終わらせようという態度はおかしい。公認団体であるという自覚が足りてない」と怒りをにじませた。

同自治会は、大学が全ての法学部生から代理徴収した自治会費で活動を行っている。昨年度の支出総額は約204万円で使途不明金は支出の13.7%にあたる。関係者によると、同自治会は法学部長や法学部事務室などの聞き取りを受けている。ネット上には同自治会のさまざまな会計管理や具体的な使途を告発する書き込みもあり、男子学生は「真偽も含めて明らかにするべきだ。組織を存続させたいならば、体質を改善するべきだ」と語った。

別の関係者は「大学側や同自治会は事態の沈静化を優先しており、究明しようとしていない様には見えない」という。法学部学生自治会 全ての法



学部生で組織される学生自治会。運営は執行部が行う。本学で学部自治会があるのは神学部と法学部のみ。文学部・経済学部・商学部・社会学部・理学部の学生自治会は1968年からの大学紛争で崩壊した。現在は6総部や大学祭準備委、神学部学生会と共に「関西学院大学学生連盟」を組織する。

# 日進月歩

## 「令和」になり一か月半

### 浮き彫りになった課題と展望

今年4月1日、新元号が「令和」に決まった。「令和」は、5月1日の新天皇即位と同日にスタートした。この元号は、645年の「大化」から数えて、248番目の元号である。出典は現存する日本最古の歌集「万葉集」で、梅花の歌三十二首の序文である「初春令月、氣淑風和」から選ばれた。文中の「令」には「物事のつやがあるように美しい」という意味があり「令和」には人々が美しく、寄り添って生きていくという願いが込められている。この元号は国民の理想にふさわしい意味を持ち、書きやすく、読みやすいといった元号制定の条件にも合致しているのではないかと

### 元号制定過程の閉鎖性

今回の改元は、上皇陛下の退位に伴うものだ。明治期に天皇一代に一つの元号とする「二世一元の制」の制定以降、天皇陛下の崩御以外に元号が

有識者懇談会では、新元号の候補名が初めて示されたが、わずか40分という短い時間で懇談会が終了した。それだけの時間で十分な元号に対する意見交換ができたのだろうか。これから数十年使つて

いく元号を短時間で決めることはあつてはならない。また、元号発表後に会議の内容を公開しないのも疑問だ。もちろん、発表前には、漏れることを防ぐために内容を伏せておくのは、納得できる。しかしながら、発表後には議事録などを公表して国民に発

西暦との併用 一般社会では元号より西暦を使うことが多くなった。しかしながら、公文書は原則として元号が使用されている。元号使用については、法的根拠はなく、実際の表記は各行政機関の判断に任されている。また、歴史の授業で「明治維新」や「大正デモクラシー」など私たちは歴史上の事項について元号を用いることがある。私たちは義務教育の中で、元号に触れている。

しかし、実際の生活では西暦と元号を使い分けている。共同通信社が4月に行った世論調査では「普段の生活で主に使いたいのが元号は18%、西暦が34%、元号と西暦の両方が45%だった。

また、西暦と元号の換算が複雑で難しいという意見もある。外国人には元号という存在自体が身近ではないので、より一層不便さを感じさせて

元号の今後 元号は、中国で支配の正統性を象徴するものであった。かつての日本でも、支配者が時間を支配することを目的として元号は使われてきた。しかし、日本国憲法で天皇は象徴と規定される現代では、元号は一つの文化であり、自分が生きた時代を思い出すための「しおり」だ。

この「令和」の時代をどう生きていくのかは国民一人ひとりがしっかりと考えなければならぬ。

# キャンパス内の喫煙所縮小へ

## 改正健康増進法の施行により

多くの人が利用する施設での喫煙を規制する改正健康増進法が1日、一部施行された。本学でも多くの喫煙所が閉鎖された。受動喫煙対策が進むと歓迎する声がある一方、喫煙者がキャンパス外の喫煙所に流れ、周囲に影響が出ると懸念する声も聞かれる。

1日、西宮上ヶ原キャンパスでは喫煙所が4つに削減された。大学施設が集中するキャンパス東側ではB号館に設置された1カ所のみ。西

宮聖和キャンパスでは喫煙所が1カ所、神戸三田キャンパスでは5カ所となった。喫煙者がキャンパス外の喫煙所に出ることも懸念される。キャンパス内の喫煙所が「飽和状態」になれば、近隣のコンビニなどに喫煙者が流れる可能性も。法学部4年の男子学生は「多くの学生が学外の喫煙所を利用すると思う」と話す。

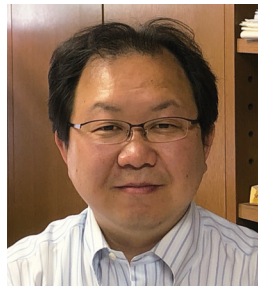
経済学部2年の女子学生は「以前は副流煙が流れてき



喫煙所の閉鎖を知らせる掲示  
= 3日、西宮上ヶ原キャンパス

て不愉快だった。多くの喫煙所が閉鎖されたことはうれし」と歓迎する一方で、喫煙者の学生は「不便になったが今さら禁煙は出来ない。困っている」と話した。

# 本学教授から高校生へメッセージ



**さかもと・ゆういちろう**  
 1995年京都府立文学部史学科卒業。2001年大阪大学文学研究科博士課程中退。18年より現職。専門は経済史、ヨーロッパ・アメリカ史。

## 「今しかできない勉強を大切に」 文学部 坂本優一郎教授

初めに、本学が高校生に求める資質について、教授の考えを聞いた。「私たちは自分の知る常識の範囲内では世界を見ることができない。その意味で、高校生が見ることができる世界は限られており、いかにその世界が狭いかを知る必要がある。そのうえで、少しでも広い世界を見ようと謙虚に努力を続けられる人こそが大学での勉強には向いている。さらには、本学の目指す世界市民としての奉仕、マスター・フォア・サービスにもつながるのでは

ないか」と話す。歴史の流れを理解するには、それぞれの時代の深い知識が求められる。効率的に知識を身に付けるために、教授は2つのことが大事だと考える。1つめは、視覚に頼ることだ。覚えにくい人物は肖像画とセットで覚える。地名や出来事は資料集の地図や絵を利用するといったところだ。2つめは、歴史の流れをミクロとマクロの視点で理解することだ。大きな時代の流れのなかで、個々の小さな出来事が及ぼした影響、また、その意味を理解していく。ミクロとマクロを往復し、自分なりの意味づけができれば覚えやすく、また忘れにくくなるだろう。

高校時代、暗記が大の苦手だったと話す教授。しかし、論述問題を解くことは好きだったという。「教科書を見ながらでも論述問題に取り組むことはとても役に立つ。歴史の流れを考えながら自分の言葉で説明していく作業は歴史のより深い理解につながった」と話した。

最後に、高校生に対して応援のメッセージをもらった。「今はやりたいことのほとんどを我慢して勉強していると。しかし、その勉強は絶対に無駄にならない。大学に入ってから、そして卒業後に必ず役に立つ時が来るはずだ。今しかできない勉強を、悔いのないよう最後まで頑張ってください」と語った。

**新聞総部新入部員募集中**

Twitter : @kg\_shinbun 取材情報更新中! DM・リブ対応しています

Facebook : 「関西学院大学新聞総部」で検索 部員コラム更新中!

HP : <https://kgpress.jp/> をチェック!

**受験生のみなさん**

神戸市営住宅・兵庫県営住宅ほか  
 電気設備保全工事 知中電機合同会社  
 〒653-0834  
 兵庫県神戸市長田区川西通り5丁目107番地の8

**関西学院大学へようこそ。**



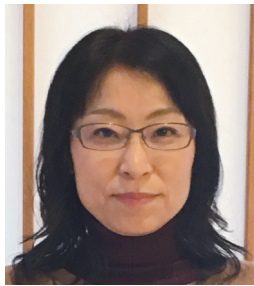
**おおはし・たけひこ**  
 1978年早稲田大学第一文学部卒業。87年同大文学研究科日本文学専攻博士後期課程満期退学。2004年より現職。専門は日本文学。

## 「自分らしい価値判断で思考を」 文学部 大橋毅彦教授

大橋教授は、本学を目指す学生に求めることを、ある小説家の言葉を用いて「いいことはゆつくりとしかやってこないのだから、上っ面だけの判断や情報には流されずに、自分らしい価値判断のもとに思考し、行動する力をつけること」と語った。また「文章を正確に読む読解力や、伝えたいことを的確に伝える文章力をつけるためには、自分が興味をもった事柄に粘り強く向き合うことが重要」とも話す。こうすることで、多角

的な視点から物事を考えられるという。高校時代の教授は、好きになった文学作品を何度も読み直し、その作品について論じた評論書も読んでいたそう。こうしたことが、教授の日本語力を培ったのかもしれないという。この能力は、一朝一夕で培うことができるものではない。そのため、少しずつでも本を読むことを学生に勧めた。

最後に大橋教授は、受験生に対して「勉学や部活動などで、高校生活の大詰めには差し掛かっている高校生も多いだろう。しんどくなった時には、心がほっと安らぐような人と語らうことが大切だ」とメッセージを残した。



## 「詩の魅力を原文で」 文学部 竹山友子教授

竹山教授は、16、17世紀のイギリス詩を研究対象としている。中でも女性詩人による詩が専門で「当時は現代よりも女性が声を上げにくかった時代。文学の中に隠された女性たちの訴えに興味があり、研究している」と語る。

閉店のため格安で卒業袴・着物を販売いたします

通常レンタル価格	SALE販売価格
女性用	
20,000円の小振袖	5,000円(税込)
12,000円の袴	5,000円(税込)
男性用	
30,000円の袴セット	5,000円(税込)
(着物・羽織・袴・長襦袢・帯・羽織紐)	

レンタル衣装アーサ  
 ASA ☎090-1155-5876  
 お電話のうえご来店ください  
 宝塚市逆瀬川1-11-1アピア2-1階

# 本学が目指す先 ~Kwansei Grand Challenge 2039~

「あらゆる産業で数理的な能力が重要となってくるため、当然この能力は文系の学

### 長期戦略と本学の施策

2021年度に、本学の神戸三田キャンパスが再編される予定だ。これは本学の長期戦略「Kwansei Grand Challenge 2039」に基づくものだ。本学の創立150周年に当たる39年に向けて策定されたこの長期戦略について、学校法人関西学院総合企画部の小野宏さん58に取材した。

この長期戦略の基盤となるのは、村田学長の下で、総合企画部が半年以上かけて作成した未来予測だ。この未来予測は、人口が世界的に増加すると予想される一方、日本は減少傾向であることや、現在急速に広まりつつある第4次産業革命、進行する地球温暖化や、世界的に増加傾向の留学生など、様々な視点から作成されている。これらの予測から、これからの社会で必要とされる能力を分析したという。

この分析を踏まえて、小野さんは「これからは数理資本主義の時代ともいわれている。飛躍的に進歩しているAIや情報科学の概念があらゆる産業に組み込まれつつある今、これらの知識と技術は必須である」という。そのため、この長期戦略には「理系の強化・充実」が重要な課題として掲げられている。その大きな動きの一つが、21年度に予定されている神戸三田キャンパスの再編だ。(2面参照)

生にも求められる。政府には、数理・データサイエンス科目を大学全学部の必修科目にしようという動きもある」という。文理を問わず、AIや情報科学の知識、技術で現実の諸問題を解決できる人材を育てるために本年度より始まったのが「AI活用人材育成プログラム」だ。このプログラムはAIの最先端研究ではなく、既存の技術を使い新たな価値や解決法をつくり出せる人材を育成するためのものだ。学生の反応も良く、文系の学生を中心に、80名の定員に対して約4倍の応募があった。

さらに、小野さんは「進行するグローバル化の影響で、世界を舞台に活躍できる人材が求められている」と続ける。18年度に、本学から海外へ留学した学生は2千人を超え、留学生受け入れ数も1300人を超える。これは、全国でも有数の実績だが「本学では23年度に、海外への留学生を年間2700人にする目標を掲げており、これからもっと増やしていく」とのこと。

小野さんは取材の中で、「持続可能性」という言葉を何度も使った。再編される神戸三田キャンパスの重点研究テーマも「持続可能なエネルギー」「石油や鉱物、食料など」とはもとより、地球そのものが限りある資源だ。この資源を使いつくすことなく、持続可能な社会を作ることが、人類が抱える最も重要な課題だと思ふ。

最後に小野さんは「この長期戦略は、ダブルチャレン

ジ制度や国連との連携強化など、今回挙げたもの以外にも多くの施策が組み込まれている。それらを利用して学ぶ学生は増えているのは、素晴らしいこと」と手ごたえを語った。その一方、

本学の創立の原点はキリスト教主義だ。学院の創立以来、建学の精神として重要視される考え方はあるが、大学の規模が大きくなるにつれ、宗教色は薄まっている。それでもなお、チャペルアワーやキリスト教の講義など原点を感じられる時間は多い。今日はキリスト教主義教育について掘り下げる。

キリスト教主義の理念を具体的に言えば「能力に関わらず、一人ひとりを大切にすることだ」と関西学院で宗教総主事を務める山本俊正教授は語る。神の前において人間は平等であるというキリスト教の考え方は創立以来大切にされており、早い段階から困難な状況にある学生に対しても就学の機会を提供してきた。障害者の受け入れは社会に先駆けて行われており、日本点字図書館を創立した本間一夫氏など著名な卒業生も多い。また、本学は日本の大学で初めて「難民」学生推薦入試制度を設置するなど、建学の精神に基づいた取り組みは多い。学生が日頃からキリス

ト教主義教育を実感することの出来る機会も多い。全学部で必修の講義「キリスト教」やチャペルアワーはその代表だ。「キリスト教」では客観的な視点からキリスト教の考え方や、キリスト教に基づく建学の精神を学ぶ。山本教授は「講義では、キリスト教の理論を学ぶことは出来ても、キリスト教を本当に理解したことにはならない」という。キリスト教の学びを実践し、実際に礼拝を通して主観的に宗教と向き合うことの出来る時間がチャペルアワーだ。本学の学生は、講義とチャペルアワーの両輪でキリスト教を理解している。

### 今後の課題

と新たな課題を明かした。学生が知りたいこと、知るべきことを伝えるのは、我々新聞総部の使命だ。本学の行く末に関わるこの戦略について、今後も取材を続けていく。

文化総部甲山落語研究会の学生が落語を披露していた。山本教授は「人間の多様性を分かち合う場として様々な取り組みをしている。チャペルは気軽に来られる敷居の低いコミュニティだ」と話した。

「今後もキリスト教主義という建学の精神は揺るぐことはない」としつつ、「本学が著名な高等教育機関としての役割が大きくなるにつれて、成果主義的な評価を受けるも多くなる。建学の精神を具現化し、多様性のある学院だということも学内外に積極的に発信していきたい」と山本教授は語った。

チャペルアワーで落語を披露する、文化総部甲山落語研究会の櫻葉亭天蝶さん。この日のチャペルは多くの学生でにぎわっていた。4日、商学部チャペル

本学の長期戦略は、本学と本学の学生の将来を左右する重大な案件であるにも関わらず、学生の多くはその内容を知らない。小野さんはこれに危機感を示し「学生に説明する機会を設けたい」

本学創立期のチャペルの様子。中央は第2代院長の吉岡美郷、右が普通学部長を務めたウエンライト。1904年、原田の森キャンパス（現在の神戸市灘区王子町）、関西学院学院史編纂室提供

## K.G.HISTORY

## キリスト教主義教育の歴史

本学のチャペルアワーは授業実施期間中、10時35分から11時5分までの30分間、学部ごとに運営されている。大学紛争によって休止状態になったこともあるが、1970年以降は今に至るまで行われ続けている。プログラムは講話を中心に、学生団体の活動報告や音楽団体の発表など様々。4日、記者が取材した商学部のチャペルアワーでは

ト教主義教育を実感することの出来る機会も多い。全学部で必修の講義「キリスト教」やチャペルアワーはその代表だ。「キリスト教」では客観的な視点からキリスト教の考え方や、キリスト教に基づく建学の精神を学ぶ。山本教授は「講義では、キリスト教の理論を学ぶことは出来ても、キリスト教を本当に理解したことにはならない」という。キリスト教の学びを実践し、実際に礼拝を通して主観的に宗教と向き合うことの出来る時間がチャペルアワーだ。本学の学生は、講義とチャペルアワーの両輪でキリスト教を理解している。



チャペルアワーで落語を披露する、文化総部甲山落語研究会の櫻葉亭天蝶さん。この日のチャペルは多くの学生でにぎわっていた。4日、商学部チャペル

文化総部甲山落語研究会の学生が落語を披露していた。山本教授は「人間の多様性を分かち合う場として様々な取り組みをしている。チャペルは気軽に来られる敷居の低いコミュニティだ」と話した。「今後もキリスト教主義という建学の精神は揺るぐことはない」としつつ、「本学が著名な高等教育機関としての役割が大きくなるにつれて、成果主義的な評価を受けるも多くなる。建学の精神を具現化し、多様性のある学院だということも学内外に積極的に発信していきたい」と山本教授は語った。



本学創立期のチャペルの様子。中央は第2代院長の吉岡美郷、右が普通学部長を務めたウエンライト。1904年、原田の森キャンパス（現在の神戸市灘区王子町）、関西学院学院史編纂室提供

**関西学院大学新聞**  
定期購読のご案内

学生の目線で情報をお届け！  
臨時発行の「かわら版」も同封！  
ここだけの関学情報が満載！

詳しくは  
「新聞総部 定期購読」  
で検索！



スーパーマーケットで安価で売り出されるザワークラウト

先月まで、ジャケットが手放せないほど寒かったドイツは、夏を迎えた。夏といっても、湿度が低く、風もカラッとして気持ちがいいため、日本の春や秋のような過ごしやすい気候だ。

約1年の留学生活も、あと少しで折り返しを迎える。ドイツは、比較的日本と国柄が近く、日常生活でも異国とは思えないほど快適だ。ただ、私はドイツでの生活を通して、日本の無駄の多さを

が自然と気になるようになった。ここで私が指摘する無駄は、二種類に分けられる。一つは、資源の無駄だ。近年問題視されており、改善に向けて様々な取り組みが行われている。日本でも、レジ袋の取り組みなどを目にする機会も増えた。しかし私は、無駄は更に根本的なところにあると考える。例えば日本では、洋服や雑貨などを透明なビニールなどに包み、それを更に紙袋に入れる。しかし、透明なビニール袋は必ず捨てられるだけでなく、開封時の手間ともなり得る。日本人の丁寧な性格が、無駄を生んでしまっているのかもしれない。

# 留学レポート

## 留学で分かった日本の「無駄」

もう一つは、労働の無駄だ。前回触れた労働時間についてだけではない。労働の内容にも、日本人の働き方は無駄が多いように感じる。例えば、

めたスティーン・チョボスキー監督は、人と違った個性を受け入れてもらう側と受け入れる側の両者が、徐々に本当の自分を表に出すことができれば人は自然と変わる、と考える。これは、この病気の発症者だけではなく、性的少数者や障害者などを含む社会的マイノリティの人々にとっても同じことがいえるだろう。彼らが生まれ持った特徴を変えられることはできないが、我々が見る目を変えることはできる。取り繕った外見ではなく、内面の魅力を見ることが大切であり、その小さな一歩が世界を変えることを教えてくれるヒューマンドラマだ。

皆さんは「トリーチャー・コリンズ症候群」という病気を存知だろうか。これは顔の頬骨や顎の骨、外耳が未発



### 「ワンダー 君は太陽」

監督 スティーン・チョボスキー  
原作 「Wonder」 R・J・パラシオ

達のまま生まれ、特異顔貌、呼吸障害、難聴を示す遺伝性疾患である。この病気の発症ルートは、家系に発症者がいる場合は2分の1の確率による遺伝性、また家系に発症者がいない場合は染色体の変異による孤発性からであり、日本国内では5万人に1人の割合で発症している。生まれつき人と違う容貌の上、成長に応じて形成手術を繰り返す必要があるため、発症者は常に周囲の視線を気にしな

がら日々を過ごす。そのような難病と向き合いながら、自分自身の人生を切り開く1人の少年を描いたのが「ワンダー 君は太陽」という映画だ。お気に入りのヘルメットをかぶらずには外出できなかった少年が、そのヘルメットを外し、学校という小さな社会で同年代のクラスメイトと過ごす日々は、孤独との闘いだった。しかし、偏見やいじめにさらされながらも、彼自身の行動や内面の魅力は次第に周囲の人々を惹きつけ、太陽のような存在となっていく。彼の容貌は、あくまで外見上の特徴に過ぎなかったのだ。

この映画の監督・脚本を務めたスティーン・チョボスキー監督は、人と違った個性を受け入れてもらう側と受け入れる側の両者が、徐々に本当の自分を表に出すことができれば人は自然と変わる、と考える。これは、この病気の発症者だけではなく、性的少数者や障害者などを含む社会的マイノリティの人々にとっても同じことがいえるだろう。彼らが生まれ持った特徴を変えられることはできないが、我々が見る目を変えることはできる。取り繕った外見ではなく、内面の魅力を見ることが大切であり、その小さな一歩が世界を変えることを教えてくれるヒューマンドラマだ。

### スティーン・チョボスキー

1970年生まれ、米ペンシルベニア州出身。南カリフォルニア大学映画・テレビ学部脚本科卒業。2005年、ブロードウェイミュージカルの映画化『RENT/レント』の脚本を執筆。ほかに、脚本と製作総指揮を務めたテレビシリーズ『ジェリコ〜閉ざされた街』(06~08年)がある。13年には、自著『ウォールフラワー』を自ら監督として映画化した。



小売店に必須のレジは、店員が立つて行う必要があるのだろうか。ドイツでは通常、店員は椅子に座って業務を行う。立ち仕事というだけで、長時間の勤務が難しくなるばかりか、腰痛などの身体的苦痛も招きかねない。またドイツは、食文化においても無駄が少なく、主菜であるソーセージやパン、ジャガイモなどは、手を加える必要がない。副菜も、ザワークラウトや色々な種類の野菜のピクルスなどが、瓶詰めされスーパーマー

ケットで販売されており、調理の手間が省ける。そのため、ドイツには専業主婦が少なく、夫婦間で家事や育児を分担している。家事も一つの労働と考えると、料理の負担を減らすことで、時間的にゆとりを持つてるように思える。日本は「おもてなし」の精神が推奨され、丁寧な接客や丁寧な仕事ぶりが賞賛される。しかし、それらも度を越えると、返って人々の負担となり、環境に悪影響を及ぼす。我々は、自国の文化だけにとらわれず、他国に目を向けて、必要なものは削ぎ落としていく時代に突入しているのかもしれない。



スーパーマーケットに並ぶ色々な野菜のピクルス

☆基本情報☆

- ・営業時間  
12:00~22:30
- ・定休日  
日曜日
- ・住所  
三田市相生町 26-24
- ・TEL  
090-5153-3821

今回は、本企画で初めて三田市のお店を紹介する。神戸三田キャンパスに通う学生が多く集まるJR三田駅から徒歩10分、居酒屋のような外観をした大衆食堂の「龍のひげ」というお店がある。



### おすすめのお店探し隊!

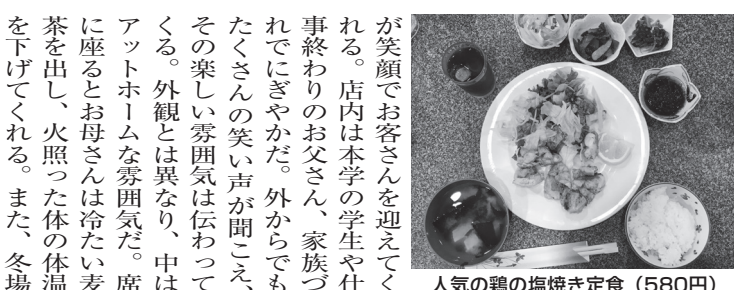
vol.22.

## 「龍のひげ」



笑顔が素敵なお母さん

店内の壁にはお店の看板に書いてある串カツとお好み焼き以外のメニューも記載されている。オムライスやトンカツなど、他にも数えられないほどのメニューがある。人気の鶏の塩焼き定食は580円で、サラダ、一品が3〜4つ、



人気の鶏の塩焼き定食 (580円)

味噌汁、ご飯おかわり自由という破格の安さだ。ほかにも10種類ほどの定食があり、全て580円だ。さらにお母さんは、食べ盛りの男の子に大盛りのご飯にふりかけやご飯のお供を添える。そして、席には15種類ほどの調味料が置いてあり、使い放題だ。食後はコーヒーやアイスなどもサービスしてくれる。心優しいお母さんのおもてなしが素晴らしい。三田市民や下宿生から愛される理由だろう。お母さんに聞きたいと思う。出を聞くと「下宿生が卒業の際にお世話になりました、ありがとうございます。ありがとうございました、と感謝を親と伝えるにきてくれたことだ」と話した。とても感動したという。学生の心をあたためる母のような存在であるお母さんも、学生に心をあたためられたそうだ。「人にあるが、人にありがとうと言われたい」という思いでこの仕事を続けていると話したお母さんの言葉通りであった。

K.G. PEOPLE

#34.

山上 雄大さん (法・2)

近年、若年層の政治離れが進み、ニュースなどでも取り上げられるようになった。年代別投票率は、顕著にそれらが現れるものとして注目されている。2016年6月に施行、適用された改正公職選挙法により、18歳選挙権が実現されたことも、大きな話題を呼んだ。

本学でも、政治に対する取り組みが積極的に行われている。法学部では、「特定非営利活動法人ドットジェイピー」が、春期と夏期の年2回、学生を対象に提供する議員インターンシッププログラムを単位認定する制度を

政治に無関心な人はいても 無関係な人はいない

設けている。このプログラムは、若者に政治を身近に感じてもらうことを目的としており、これまでの参加したのは、議員事務所約1万1007カ所、大使館などの機関が193カ所、学生のべ2万9350人を超えている。山上雄大さん(法・2)インターンシップに参加した。

山上さんは、堺市議会の瀧上猛志議員のもとでインターンを行った。活動の一環として行い、議会への参加や打ち合わせの同席の中で、学生に意見を求められる場合もある。山上さんは、自分の意見が反映されることに「充実

部室だより

vol.24

文化総部 関西学院交響楽団

文化総部 関西学院交響楽団

部員数：110人  
創部年：1913年  
活動日：水曜日、金曜日 (17:00~20:00)  
土曜日 (13:00~17:00)  
部室：新学生会館3階  
Twitter：@kwanorche  
HP：http://orchestra.musicinfo.co.jp/~kwanseiорche/

今回の部室だよりは、文化総部 関西学院交響楽団部長の加藤舞子さん(総政・4)に取材を行った。

「まず活動内容を教えてください。」

「毎週水曜日と金曜日、土曜日に練習しています。練習としてはパート練習や合奏などです。」

「演奏旅行は、音楽に親しみたいという目的で開催しています。最近では、ファミリーコンサートという形をとっており、指揮者体験やアニメ映画の音楽などを通じて音楽に親しむを持ってもらう企画を行っています。」

「演奏で使う楽器は自分で買うのですか？」

「演奏旅行は、年に何回程度開催していますか？」

「まず、定期演奏会は年2回やっています。また、夏休み中は演奏旅行で全国各地に行っています。今年は、愛知県豊田市に行く予定です。」

「演奏旅行では何をしますか？」



「演奏旅行は、音楽に親しみたいという目的で開催しています。最近では、ファミリーコンサートという形をとっており、指揮者体験やアニメ映画の音楽などを通じて音楽に親しむを持ってもらう企画を行っています。」

「演奏で使う楽器は自分で買うのですか？」

「演奏旅行は、年に何回程度開催していますか？」

「まず、定期演奏会は年2回やっています。また、夏休み中は演奏旅行で全国各地に行っています。今年は、愛知県豊田市に行く予定です。」

「演奏旅行では何をしますか？」

「クラシックはなかなか身近に感じにくいですが、しかし、そういった人こそオーケストラを聴きに来てもらいたいです。ドレスコードもありませんし、緊張しなくてもいいです。ただリラックスして聴いてもらいたいです。そうすればきっと良さがわかると思います。」

「私たちの部活は、部員数110人という規模が大きい部活です。部活の仲間たちと演奏技術等を磨きあうことによって、自分の技術面やモチベーションなどが大きく成長していると感じます。」

「私たちが部活は、部員数110人という規模が大きい部活です。部活の仲間たちと演奏技術等を磨きあうことによって、自分の技術面やモチベーションなどが大きく成長していると感じます。」

「クラシックはなかなか身近に感じにくいですが、しかし、そういった人こそオーケストラを聴きに来てもらいたいです。ドレスコードもありませんし、緊張しなくてもいいです。ただリラックスして聴いてもらいたいです。そうすればきっと良さがわかると思います。」

「私たちの部活は、部員数110人という規模が大きい部活です。部活の仲間たちと演奏技術等を磨きあうことによって、自分の技術面やモチベーションなどが大きく成長していると感じます。」

「私たちが部活は、部員数110人という規模が大きい部活です。部活の仲間たちと演奏技術等を磨きあうことによって、自分の技術面やモチベーションなどが大きく成長していると感じます。」



「君、それ重くないの？」

「慣れたら大丈夫ですけど。」

「なんか、君、亀みたい。そう言わない？」

「自分がカバンの中に入ったりはしませんよ。」

「あ、ああ、いや、そういうことじゃなくって。」

「妙に大きくてギチギチのリュックサックを背負っているものだから、気になって声をかけてみた。中国人だというその男子大学生からは、体形や草、雰囲気も含めてずっしりと、また鈍いようなイメージを受ける。まるで亀。大多数がそう感じそう。リュックにぶつかった時の、中身の詰まった重さと硬さも、なんとなく亀を想起させる。」

「君、それ重くないの？」

「慣れたら大丈夫ですけど。」

「なんか、君、亀みたい。そう言わない？」

「自分がカバンの中に入ったりはしませんよ。」

「あ、ああ、いや、そういうことじゃなくって。」

「妙に大きくてギチギチのリュックサックを背負っているものだから、気になって声をかけてみた。中国人だというその男子大学生からは、体形や草、雰囲気も含めてずっしりと、また鈍いようなイメージを受ける。まるで亀。大多数がそう感じそう。リュックにぶつかった時の、中身の詰まった重さと硬さも、なんとなく亀を想起させる。」

文芸部 読み切り小説 「亀の鈍進」

斎波



④ 堺市議選で街頭演説を行う山上さん(4月、堺市)



⑤ インターンシップで打ち合わせに参加する山上さん(奥右)

「君、それ重くないの？」

「慣れたら大丈夫ですけど。」

「なんか、君、亀みたい。そう言わない？」

「自分がカバンの中に入ったりはしませんよ。」

「あ、ああ、いや、そういうことじゃなくって。」

「妙に大きくてギチギチのリュックサックを背負っているものだから、気になって声をかけてみた。中国人だというその男子大学生からは、体形や草、雰囲気も含めてずっしりと、また鈍いようなイメージを受ける。まるで亀。大多数がそう感じそう。リュックにぶつかった時の、中身の詰まった重さと硬さも、なんとなく亀を想起させる。」

「君、それ重くないの？」

「慣れたら大丈夫ですけど。」

「なんか、君、亀みたい。そう言わない？」

「自分がカバンの中に入ったりはしませんよ。」

「あ、ああ、いや、そういうことじゃなくって。」

「妙に大きくてギチギチのリュックサックを背負っているものだから、気になって声をかけてみた。中国人だというその男子大学生からは、体形や草、雰囲気も含めてずっしりと、また鈍いようなイメージを受ける。まるで亀。大多数がそう感じそう。リュックにぶつかった時の、中身の詰まった重さと硬さも、なんとなく亀を想起させる。」